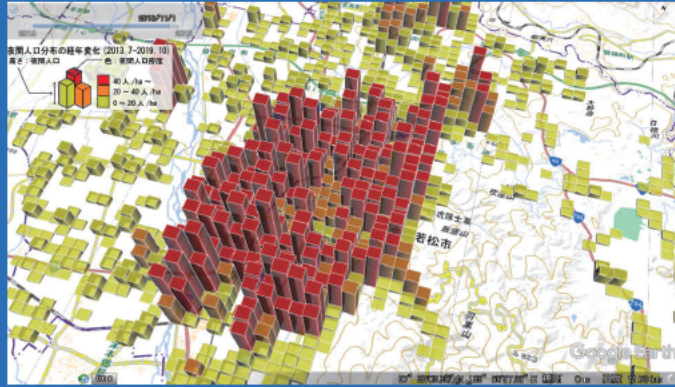


都市構造可視化計画の 活用に向けて

～庁内GISとの連携～



福島県会津若松市 都市計画課

1. 課内職員 & 庁内GIS活用検討チームにて復命

・人口分布や販売額分布の推移などわかりやすさにくぎ付け！

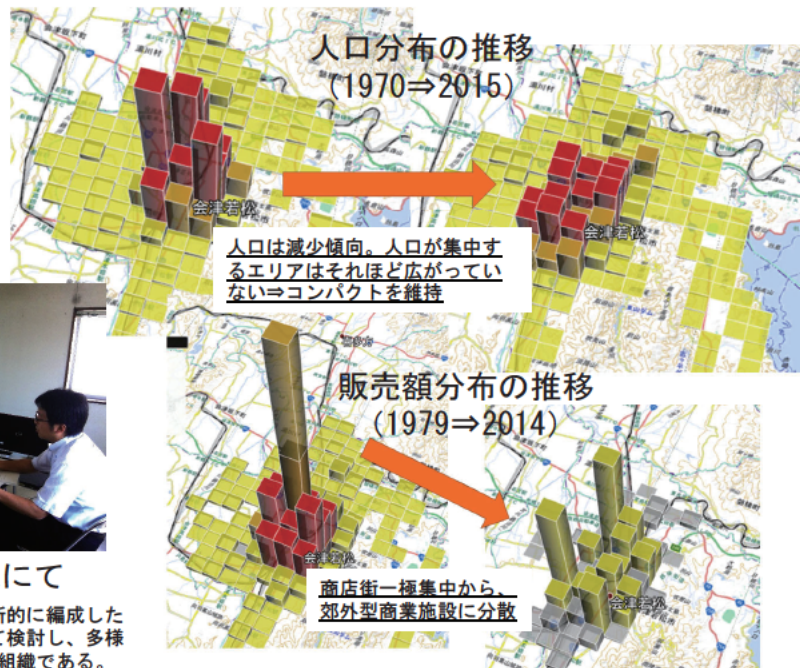


課内にて



庁内GIS活用検討チームにて

※庁内GIS活用検討チームとは、庁内横断的に編成したチームであり、統合GISの活用法について検討し、多様な業務の高度化・効率化を推進していく組織である。



2. インターンシップ講習等にて活用 & 現地確認に活用

- ・i-都市再生等HP掲載データを利用して、市の状況を説明
- ・区域区分変更予定個所の現地の状況把握に活用（3D表示）

◎市の状況説明などに活用



インターンシップの
大学生に対して

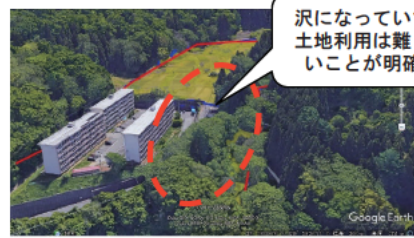
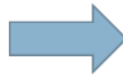


都市計画審議会にて

◎区域区分変更予定個所の状況把握に活用



現地の状況把握
起伏がわかると現地の
具体的なイメージをし
やすい



沢になっていて
土地利用は難し
いことが明確

3. 独自データとの掛け合いによる分析〈空き家×人口増減〉

- ・空き家のポイントデータと人口増減の関係から、まちの状況を把握



上から
のぞくと

50年程前に造成された
住宅団地
※緑の点が空き家ポイント



補注：地図は©2018 ZENRIN, Google Earthを使用

4. 市のGISに関する取り組みと可視化計画の連携

- ・住民ポイントデータを日々整備し業務に活用（オープンデータ化）
- ・GIS活用検討チームで都市構造可視化計画の活用を検討

市民約12万人をポイントデータ化し日々更新



窓口で異動場所について聞き取り
毎夕方、住基データの更新をGISへ反映

250m四方のメッシュで区切り、統計情報としてオープンデータ化

市内での活用（公共交通検討など）の他、研究や出店検討など、市外でも活用



GIS活用検討チームで活用法検討
⇒市内情報資産の活用から始める
⇒オープンデータを変換依頼



メッシュデータを立体棒グラフに変換

変換

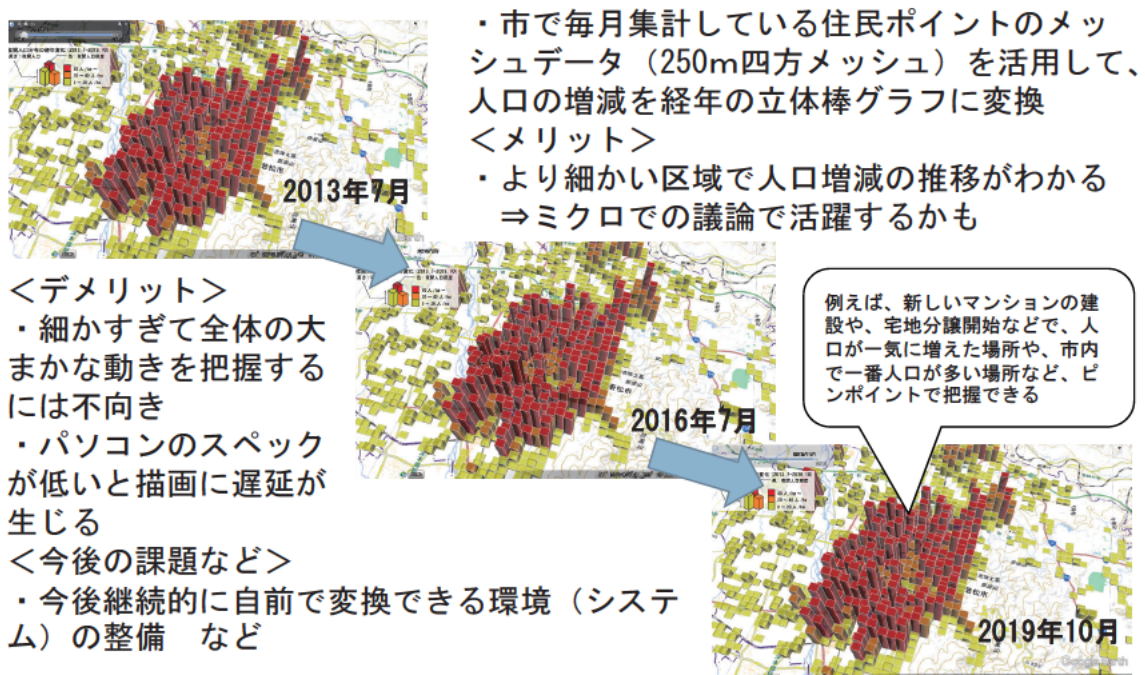
i-都市交流会議2020

補注：地理院地図を使用

5

5. 市内情報資産（オープンデータ）の変換成果

- ・月毎人口メッシュデータ【2013.7～2019.10】の立体棒グラフ化



2013年7月

2016年7月

2019年10月

例えば、新しいマンションの建設や、宅地分譲開始などで、人口が一気に増えた場所や、市内で一番人口が多い場所など、ピンポイントで把握できる

・市で毎月集計している住民ポイントのメッシュデータ（250m四方メッシュ）を活用して、人口の増減を経年の立体棒グラフに変換

<メリット>

- ・より細かい区域で人口増減の推移がわかる
- ⇒ミクロでの議論で活躍するかも

<デメリット>

- ・細かすぎて全体の大まかな動きを把握するには不向き
- ・パソコンのスペックが低いと描画に遅延が生じる

<今後の課題など>

- ・今後継続的に自前で変換できる環境（システム）の整備 など

i-都市交流会議2020

補注：地理院地図を使用

6

6. 次年度以降の活用について

- ◎都市構造可視化ツール最大のメリット
⇒視覚的に一目瞭然。わかりやすい！！
 - ・令和2年度から取り組む「立地適正化計画」の策定に活用
⇒各種データによる都市構造の分析、誘導区域の検討等に活用
⇒住民説明会等で、わかりやすく説明するために活用
 - ・庁内GIS活用検討チームで活用法の継続検討
⇒庁内統合GISとの連携
⇒庁内情報資産をよりわかりやすく見せるツールの一つとして活用
- 〈今後期待すること、今後の課題〉
- ・i-都市再生掲載データの充実
 - ・自前でのデータ変換の環境、技術、機器対応 など
⇒庁内GIS活用検討チームで対応検討

歴史と伝統、そしてIT先進都市会津若松

都市の紹介

歴史と伝統

市のシンボル「鶴ヶ城」



- ・米 ・日本酒 ・馬刺し
- ・ソースかつ丼 ・こづゆ
- ・会津漆器 ・猪苗代湖
- ・白虎隊 ・赤べこ など

会津若松市公認キャラクター
←「会津侍 若松つつん」

「会津大学」を中心として、
ICTに関連した産業や施策が進展

会津若松市



スマートシティ会津若松
の実現に向けて推進

ICTオフィスビル



平成31年4月開所

産学官
連携



会津大学

- ・平成5年開学のコンピュータ理工学専門大学
- ・先進的なコンピュータ教育